

虫に刺されたときの対応

気温が高くなると虫たちの活動が活発になってきます。大人に比べ、こどもの虫刺されは、刺された跡が赤く腫れる、何日もかゆみ等の症状が続く場合があります。自然環境に恵まれた場所や緑の多い公園等に出かける場合は、虫除け対策をきちんとして出かけましょう。

蚊にさされたら…

大人に比べ、こどもは体温が高く、蚊に刺されやすい傾向にあります。

- 1 刺された部分を、水でよく洗い流し、清潔にする
冷たいタオルや保冷剤で冷やすと、かゆみがやわらぎます。
- 2 虫刺されの薬を塗る
こどもの場合は、刺されてしばらく経ってから強く腫れることが多く、強い症状がみられたあとに薬を塗っても、あまり効果がありません。刺されて30分以内に炎症を抑える薬を塗ると、症状が軽く済みます。
- 3 水ぶくれや赤く腫れあがる等、症状が強い場合は皮膚科や小児科を受診する

市販の薬でもある程度の効果が期待できますが、症状の強い場合は、受診をして適切な対応をしましょう。蚊が増える時期になったら、虫に刺された時に早めを受診し、塗り薬等を処方してもらいましょう。また、かゆみや腫れ等が少しでも残っている場合に、薬を塗るのをやめてかきむしってしまうと、治りにくくなります。



虫に刺された時にすぐに塗ることができるように、塗り薬を持ち歩くことをおすすめします。完全に症状がなくなるまで塗り続けましょう。

毛虫にさされたら…

ツバキやサザンカ等の葉の裏に2～3cmの小さな毛虫がたくさんいることがあります。チャドクガといい、毛虫に直接接触しなくても、この毛が皮膚に触れるだけで、強いかぶれを引き起こします。

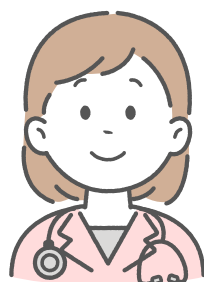
症状としては、米粒の半分くらいの赤いブツブツがたくさんでき、強いかゆみがみられます。

- 1 セロハンテープ等で「毒針」を除去する
刺された部分にセロハンテープ等を貼り付けたあとにはがすと、毒針がとれ、症状が軽く済むことがあります。
- 2 刺された部分を、水でよく洗い流し、清潔にする
さらに冷たいタオルや保冷剤で冷やすとかゆみがやわらぎます。症状が出始めた早い時期に、炎症を抑える薬を塗ると効果があります。症状が持続する、広範囲に腫れが見られる場合は、受診をしましょう。

毛虫の毒針が付着している可能性があるため、そのときに着ていた服は、他の服と分けて洗濯しましょう。



チャドクガの幼虫



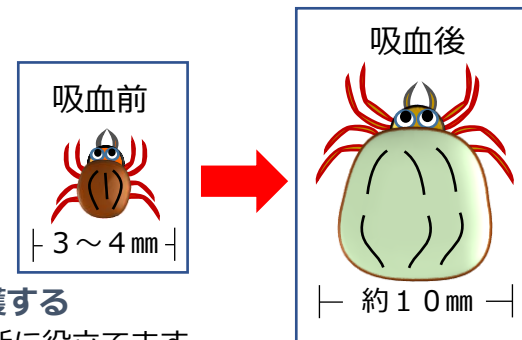
マダニにかまれたら…

マダニは緑豊かな山や畑だけでなく、町の公園等にも生息しており、動物や人に飛びつきます。

通常は数mmの大きさで、かまれても、痛みやかゆみがないため、ほとんどの場合は気がつきません。皮膚にかみついた後、約1週間、血液を吸い続け、「すいかの種」程度の大きさになって、気づくことがほとんどです。

マダニは一度かみつくと、皮膚から容易に離れないため、無理に引っばって取ると、マダニの口部分が皮膚に残り、感染症やアレルギーを引き起こす原因となることがあります。

マダニは吸血するとこんなに大きくなります！



- 1 マダニの上からガーゼやばんそうこう等で保護する
マダニごと保護して受診することで、医師の診断に役立てます。ガーゼを貼るテープやばんそうこうの粘着部分が、マダニの体に触れないように貼りましょう。
- 2 皮膚科を受診する
緊急性はないため、通常の診療時間内に受診をします。自分でマダニを取り除いた場合は、マダニを捨てずにチャック付きの袋に入れて、受診時に持参しましょう。

マダニにかまれることにより、重症熱性血小板症候群（SFTS）や日本紅斑熱という病気を引き起こすことが分かっています。一般的にマダニにかまれてから、6～14日の潜伏期間を経て、38度以上の高熱や嘔吐、下痢、頭痛等の症状が見られた場合は、総合病院を受診をします。

野外で活動する時には、服装に気をつけましょう！

右にある厚生労働省のホームページでは、野外で活動する時の予防策等が紹介されています。マダニに対する虫よけ剤を使用することで、マダニの付着を減少させることができますが、長袖・長ズボン・足を覆う靴を着用する等、様々な防護手段を組み合わせましょう。



その他の虫にかまれたら…

ハチやムカデに刺されたときは、すぐに強い痛みを感じます。

- 受診が必要な場合
 - ・刺された部分の腫れや痛みが強い
 - ・数か所刺された など
- 救急外来への受診が必要な場合



刺されてた後に、すぐに気分が悪くなる、呼吸が苦しくなる場合は、アナフィラキシーショックの可能性も考えて、できるだけ早く救急外来を受診しましょう。症状が強い場合には、救急車を呼ぶことも必要です。

